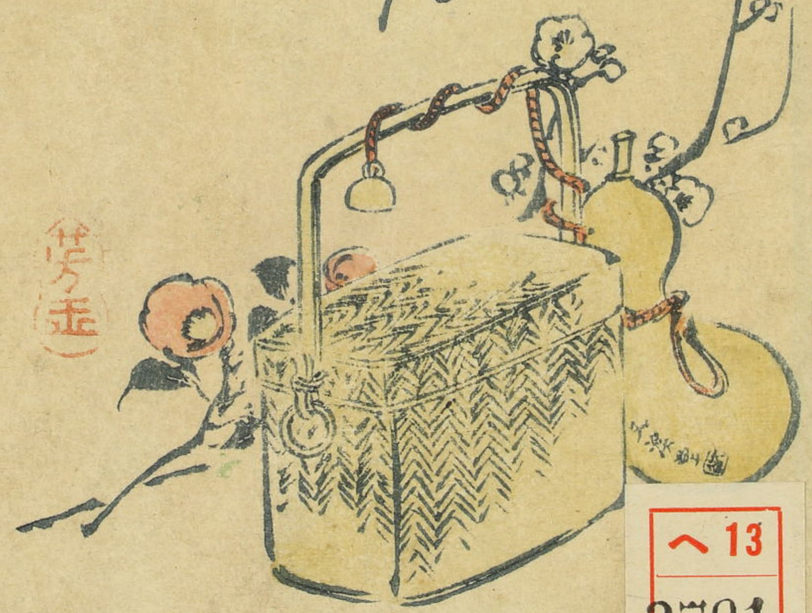
假名讀

八犬傳

十九

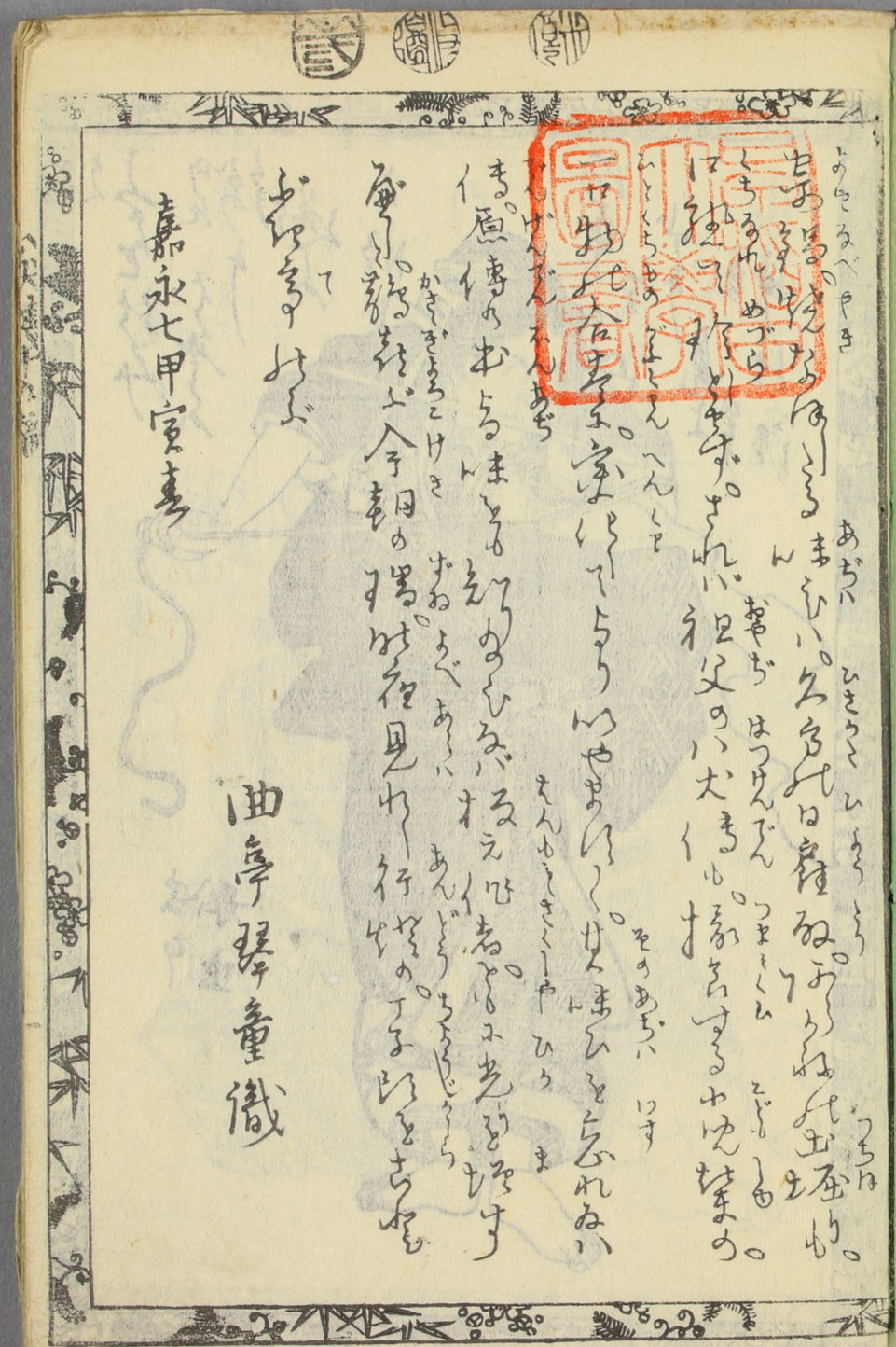
曲亭馬琴作

一雲斎國芳畫



へ13
3701
16

門 ベ13
號 3701
巻 16



嘉永七甲寅年

曲亭琴童儀

船虫

籠山逸東太縁連

犬村角太郎

現
角
東
圍
長
氷

現
氷
角

現
角

現
角
つゞき

假名讀八犬士傳

自序

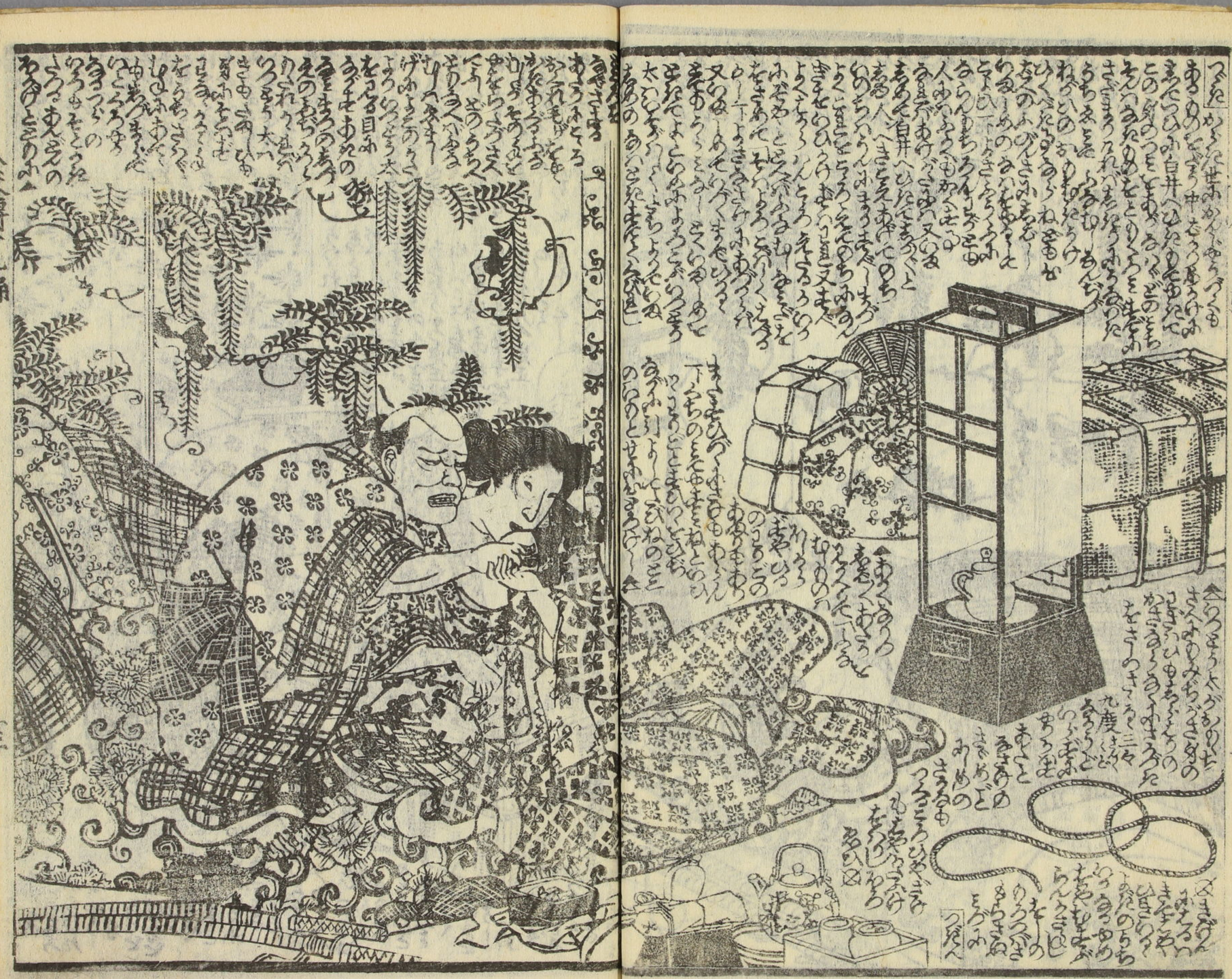
元治[illegible]

八犬傳序

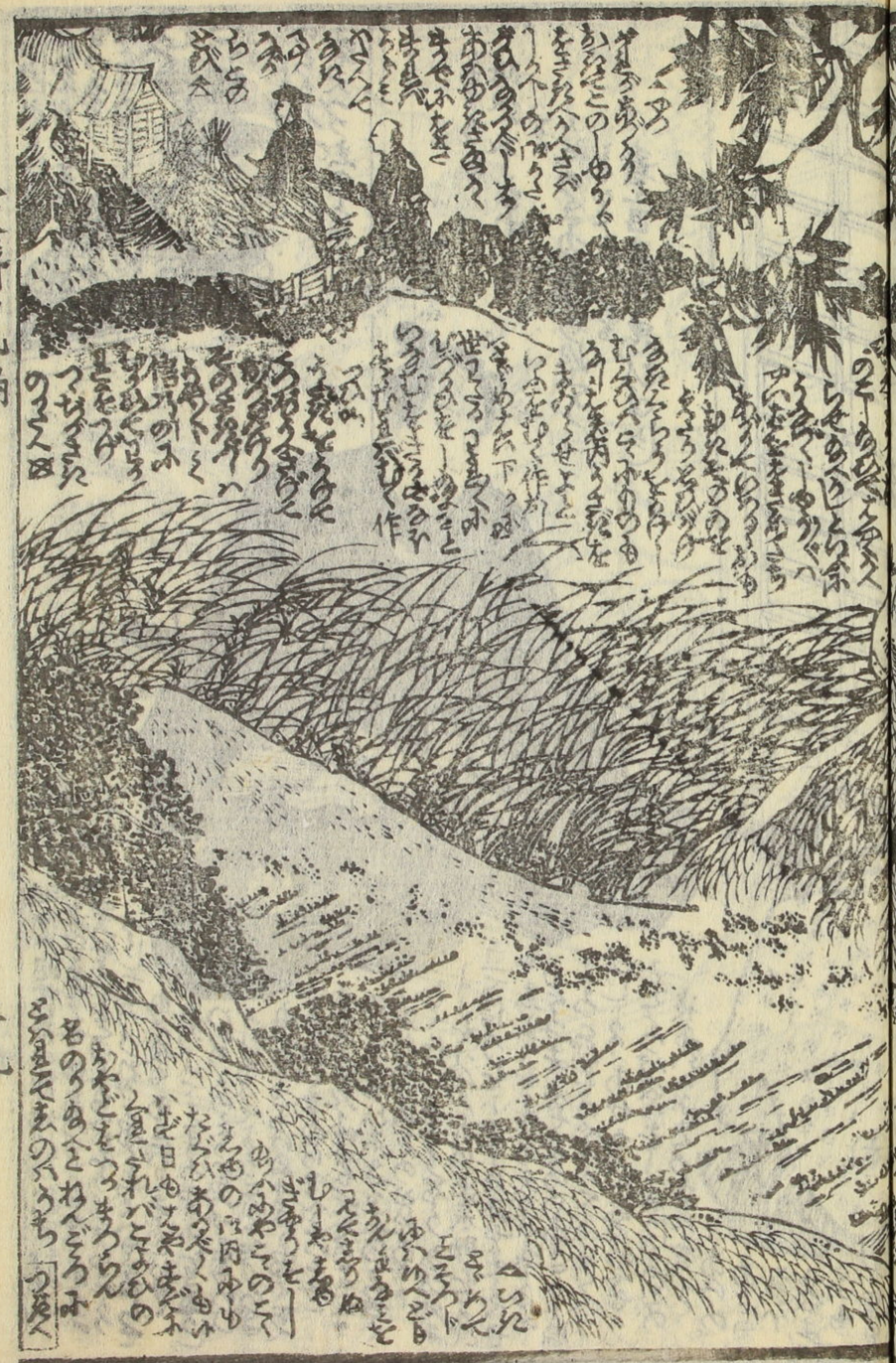
天地間の大機関、変化窮なし。其間の物、花の開落、
月の盈虧、人の生死、事、物、皆、
陰陽の運行、常者、
おのづから、偶者、
大抵、是、
陰陽、畜生の、
犬、

傾奇優
八犬傳
十九編
曲亭琴童
一勇斎國芳
上冊
下冊

このめなるみ
八犬傳
まるまるすれちがひ
曲亭馬琴作
一蕙斎国芳画



奈
木
信



文政七申年
書肆 岡屋寺助版

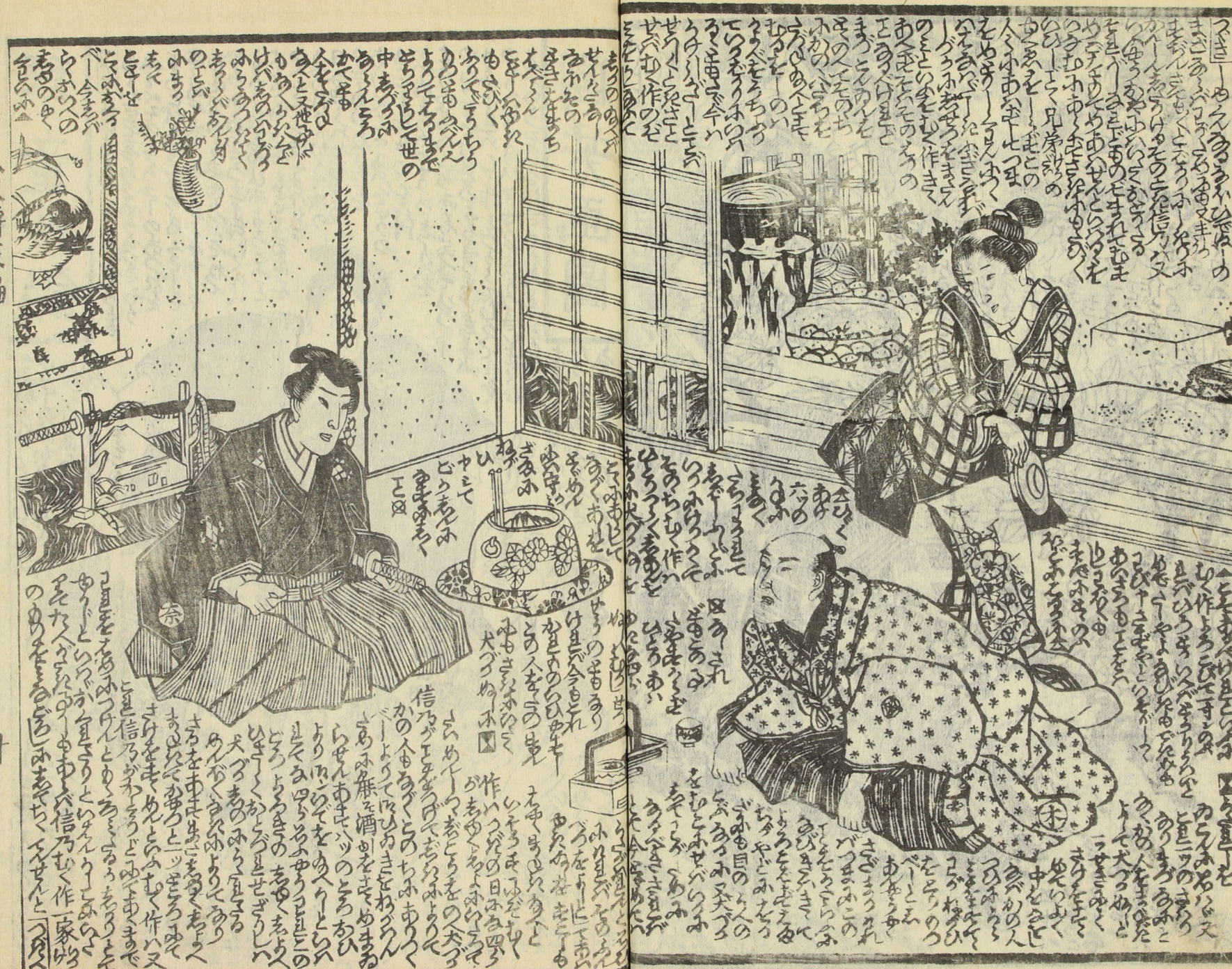
月雪花の名所へ人多く集會して詠る中に雅俗あり。詩歌文章三弦酒宴數へ見るに雅多るも少く。俗なるハ。部に多し物の本を著すものも。此大江戸の文の華。詞の林に分入りて流行を競ふもの。日に新に月に昌也。大声里耳に入らぬとせしんさとび書原本も。流行今昔無比なるに。合巻に綴りてより。いよ〳〵婦幼に流行せと書賈の告るハ實に。雅俗その品多なれども。俗の方人間へ及ぼすもの早き成知るべし。されバかるよみ人傳今年も既に廿編の。抄録終り〳〵札の上繙く書に名所を捜索ねるんぞ新奇なる序文ハ。いつと考へ見て思ひ泛ぬ下るの筆鋒喫煙の間雅俗を雑へ〳〵謖言の序ら〳〵と千代〳〵と述ぶ

文政六癸未年秋稿成
同七甲寅年初春新刻

曲亭琴童誌 琴童

木作養女
濵路姫
節婦
濵路吳

出
濱
水
信



琴童抄録

國芳画圖

下の巻へ

假名讀
八犬傳

二十編

曲亭琴童作
一勇齋國芳画

文溪堂板

うなゐみ
八犬傳
二十編

上帙

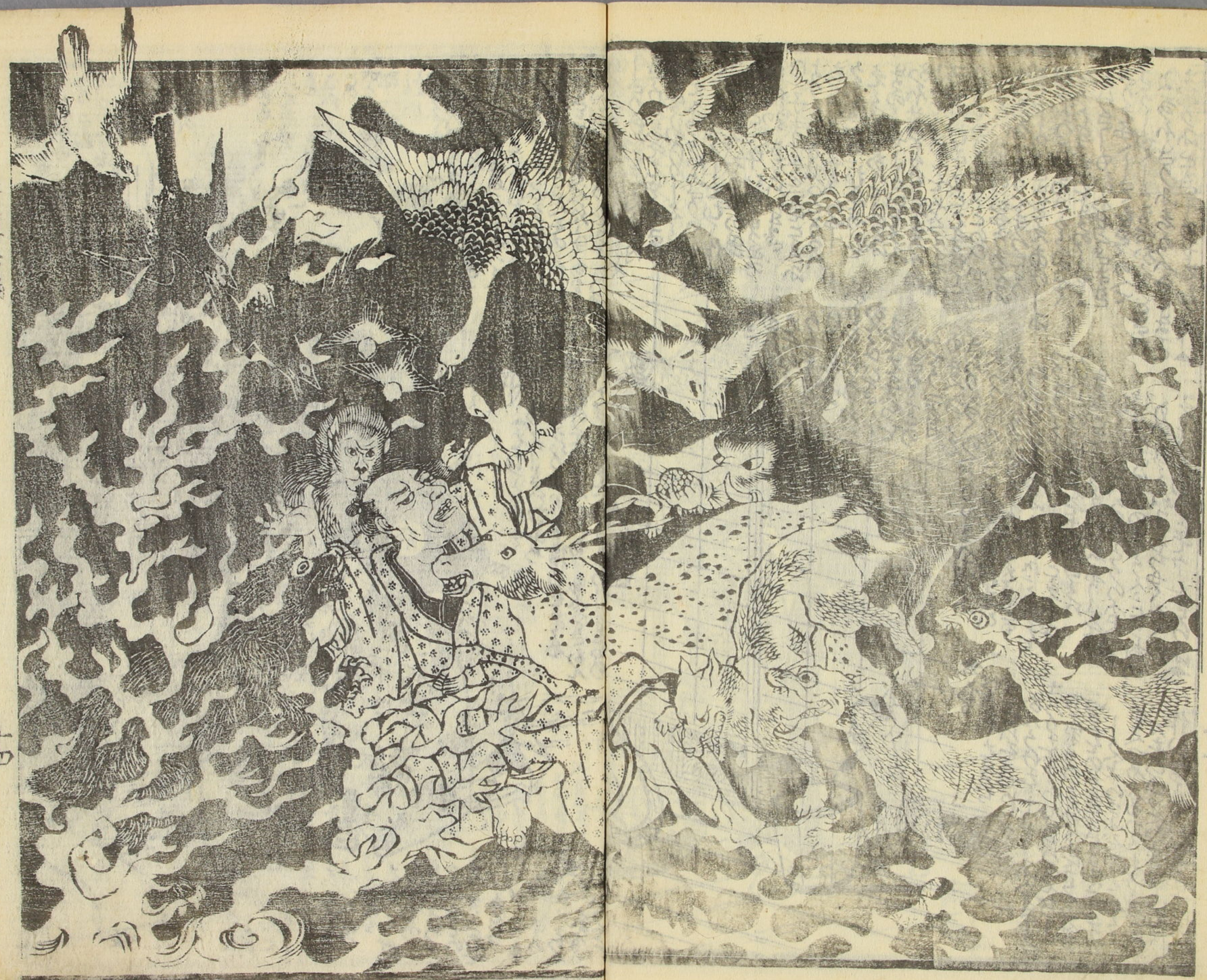
曲亭琴壽作
一勇斎國芳畫

下帙

假名讀 八犬傳 二十篇

曲亭琴童記
一勇斎國芳畫

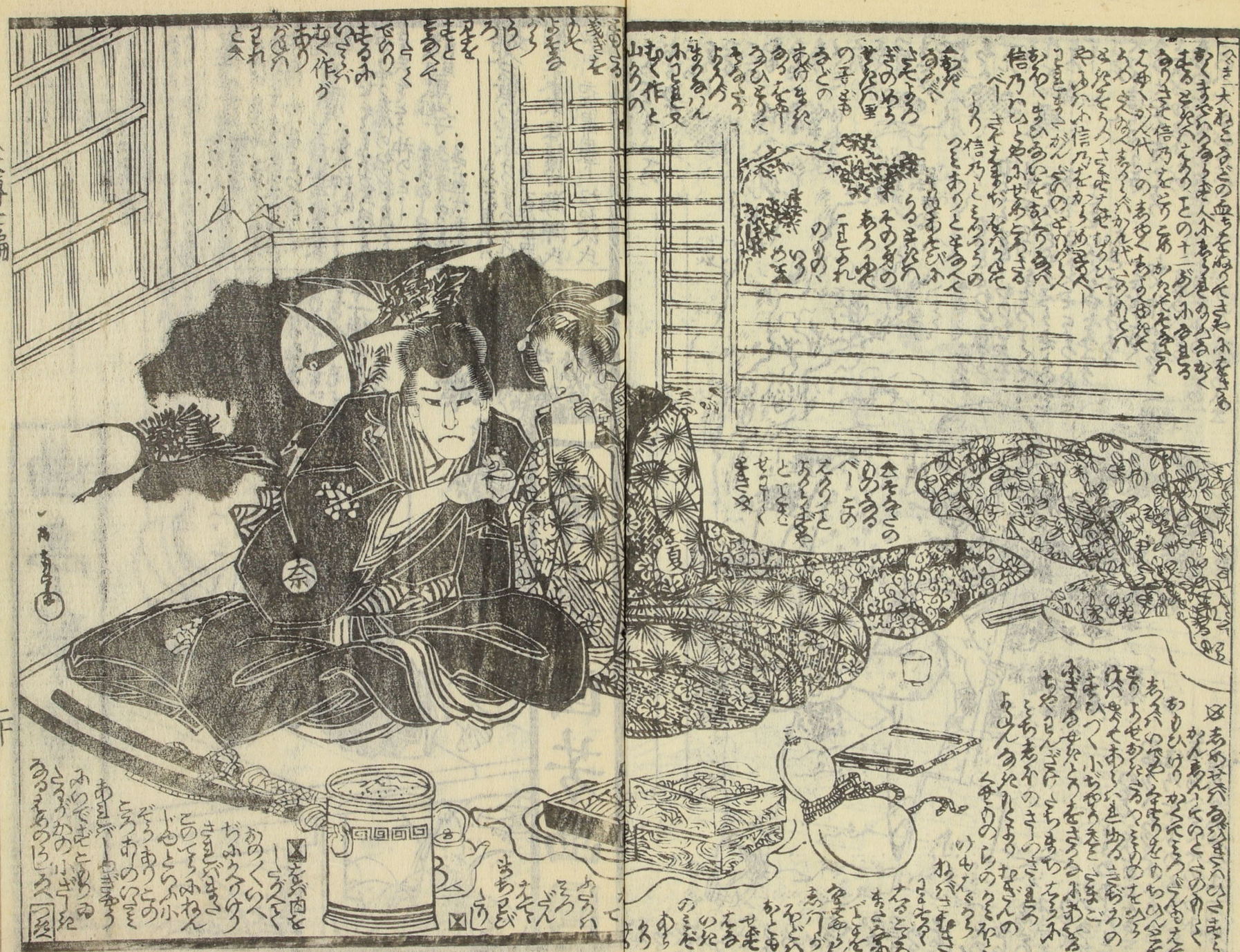
支濱畫
板



奈
を
か

出
信

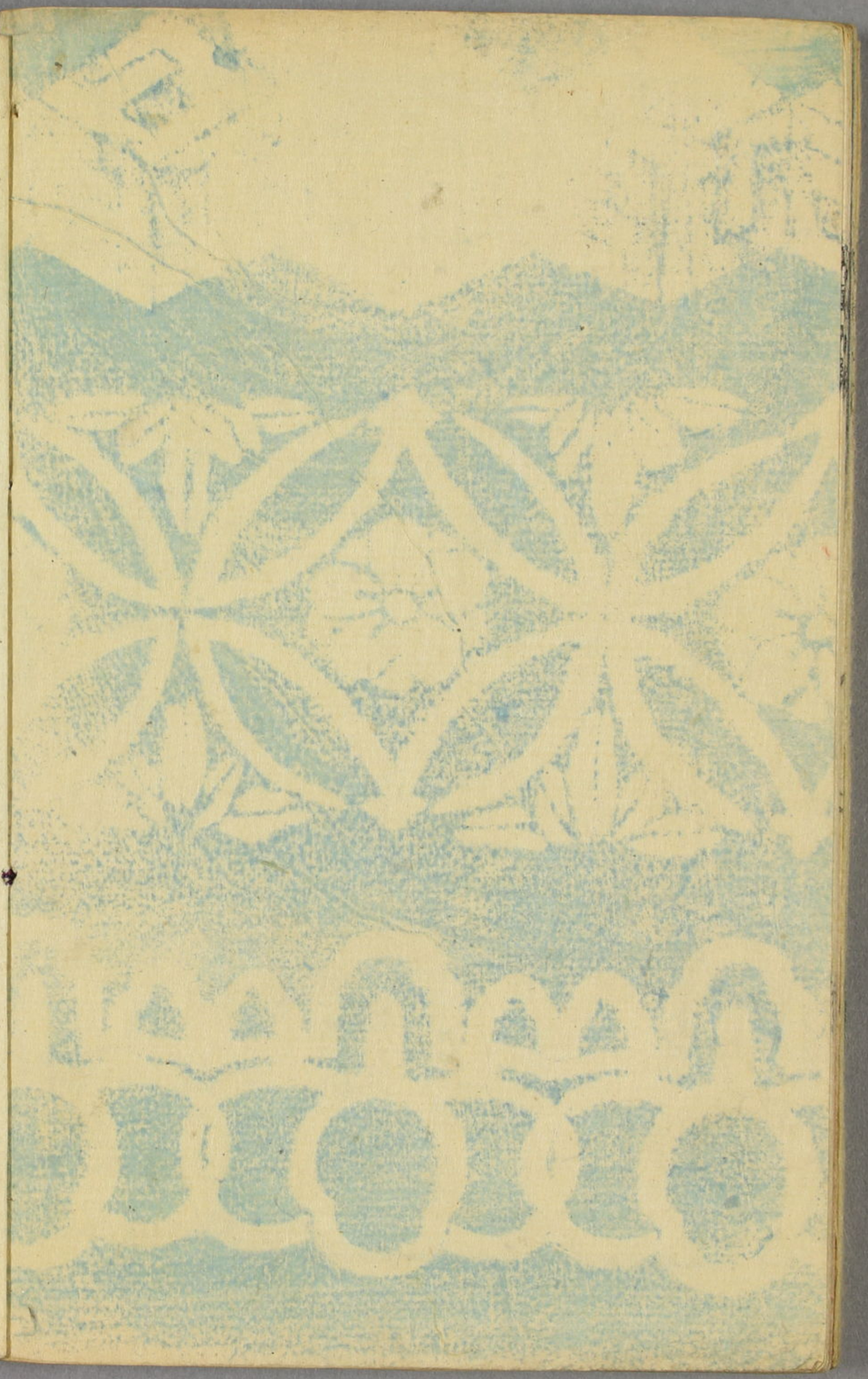
夏



曲亭琴童抄錄

一勇齋國芳画圖

発行人 名古屋市東区上竪杉町 澤田屋吉



茶柳
雲美
八犬傳
二十編

曲亭琴童作
一勇齋國芳畫

文溪堂

應齋小亮